

G どうしてコウノトリがシンボルなの？

A 生きものはすべて「食べる-食べられる」の関係でつながっています。これを図にしたものが生態系ピラミッド。ピラミッドの上にいる生きものは、下にいるたくさんの生きものに支えられて生きています。

コウノトリは、水辺の生態系ピラミッドの頂点にたつ生きもの。コウノトリが生きていくためには、たくさんの生きものがある「豊かな自然」が必要です。コウノトリがすめる環境は、その地域に住むわたしたち人間にとっても安全・安心な住みやすい環境であることの証です。

鴻巣市は、市民にとってなじみの深いコウノトリを「豊かな生態系のシンボル」として、「人にも生きものにもやさしいまちづくり」を進めています。



コウノトリを頂点とする水辺の生態系ピラミッド

コウノトリってどんなとり？

大きさ	全長：約110～115cm ちばし：約21～26cm 重さ：約4～5kg
特徴	大型の水鳥。羽の色は白と黒。足と目のまわりが赤色。黒くて長いちばし。
鳴き声	ちばしをカタカタと鳴らす「クラッタリング」をします。
食べ物	魚、カエル、ヘビ、昆虫などを食べる「肉食の鳥」。1日に500g以上も食べます。
好きな場所	田んぼ、河川、用水路などの浅い水辺。 現在、日本では99羽が野外で生息しています。(平成28年10月25日現在)



コウノトリを 見てみよう！

鴻巣市役所本庁舎1階ロビーに、埼玉県でも動物自然公園から借り受けた「コウノトリのはく製」を展示しています。

平成28年10月に鴻巣市にもやってきたよ。

G 鴻巣市って、どんなまち？

A 鴻巣市は、埼玉県のほぼ中央に位置し、首都50キロメートル圏内という地理的条件にも恵まれ、農地と市街地が調和をとりながら発展を続けています。また、古くから「ひな人形と花のまち」として知られ、歴史と伝統を守りながら市の産業を支えています。



知ってた？ 鴻巣市の半分は農地

荒川の豊かな水、肥沃な大地に恵まれた鴻巣市は、古くから農業が盛んです。市域のおよそ半分が農地であり、面積は2,500haを超えます。稲作をはじめ、麦、パンジーやプリムラなどの花卉、梨・ぶどう等の果樹等が生産されています。



「ふゆみずたんぼ」に ハクチョウがやってきた！

環境にやさしい農業として取り組んでいる市内の「ふゆみずたんぼ」に、8羽のハクチョウが遊びにきたよ。「ふゆみずたんぼ」とは、稲を刈り終わった冬の田んぼに水を張ったもので、小さな菌類から大きな水鳥まで、たくさんの生きものでにぎわうオアシスになるよ。ほかにも、土を栄養満点にしたり、雑草を抑えたりする効果があるんだ。水鳥が集まる田んぼは、たくさんの生きものが育まれている田んぼなんだね。



(平成28年12月撮影)

■問合せ 鴻巣市環境課コウノトリの里づくり担当

〒365-8601 埼玉県鴻巣市中央1-1 Tel.048-541-1321
http://www.city.kounosu.saitama.jp/

コウノトリの里の暮らしにも生きものにもやさしい暮らし



まもり、はぐくむ

自然と共生する環境づくり

たくさんの生きものがすむことのできる環境は、わたしたち人間にとっても「安全で安心」な住みやすい環境。わたしたちを守ってくれる豊かな自然環境を、大切に残していきます。

緑豊かな川のまち こうのす



しゃめんりん
斜面林は、生きもの
すみかになるよ。

水と緑に囲まれた豊かな自然は、わたしたちの安全・安心を守ってくれる宝物。未来へ大切に残していくため、保全・管理を行っています。また、市民の憩いの場、観光資源として、利用・活用されています。



ハンノキは、湿地や沼に自生するよ。

ひろがる！人にも環境にもやさしい 生きものを育む農業

鴻巣市のおよそ半分は、田んぼや畑などの農地です。市内では、生産者と地域住民、市民団体などが連携・協働し、お米づくりに農業を使わない工夫や、生きものに配慮した農法を取り入れ、人間とたくさんの生きものが共存できる環境づくりに取り組んでいます。



せうどう
魚道は魚のとおりみち。田んぼと水路を行ったり来たりできるんだ。



稲刈り後の田んぼに水を入れる「ふゆみずたんぼ」。たくさんの生きものが集まるよ。



アイガモが雑草をパクパク！

つなぎ、発信する

にぎわいのある元気なまちづくり

コウノトリをシンボルとしたまちづくりで、鴻巣市の産業や、地域のつながりを元気にしていきます。

おいしい、やさしいブランド米 「こうのとり伝説米」

鴻巣市自慢のブランド米「こうのとり伝説米」は、人にも生きものにもやさしく、おいしいお米。農業と化学肥料の使用量を5割以上減らし、埼玉県の特裁栽培認証を取得しています。生産者の想いがこもったお米は、ほどよい粘りとほのかな甘みが特長。大きく均一にそろった粒と、味・つや・香りが自慢です。

子どもたちに安全で安心なお米を！

安全・安心な「こうのとり伝説米」は、市内小中学校の給食で特別メニューとして子どもたちに提供されています。また、ふるさと納税の記念品としても活用されており、鴻巣市自慢の特産品となっています。



みんなでおにぎり、にぎったよ！

コウノトリで、地域を元気に！

農業生産者、市民団体、学生など、様々な立場の市民が主役となり、鴻巣市の魅力を発信し、市民の皆さんが愛着のもてるまちづくりを目指します。



「こうのとり伝説」をいまに伝える神社。



「こうのとり」が主役のパレード！市民が伝統を守り、伝えます。



コウノトリにちなんだスイーツ。鴻巣ならではの特産品。

関東にひろがる「生きものを育むネットワーク」

「人にも生きものにもやさしい環境づくり」は、関東全域にひろがっています。たくさんの生きものを育む豊かな自然環境は、多くの人々が集まり、協力し合うことで、大きな「面」としてひろがっていきます。



鴻巣市長 原口 和久

(コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム代表理事)

メッセージ

たくさんの生きものがすむことのできる豊かな自然環境は、わたしたち人間にとっても住みやすい環境であるとの考えのもと、鴻巣市では、市民の皆さんになじみの深い「コウノトリ」をシンボルに、人にも生きものにもやさしいまちづくりを進めています。

私は、関東4県30市町村が参加する「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」の活動などを通じて、たくさんの方々との考えを共有し、豊かな自然環境の保全・再生と魅力的な地域づくりの実現に向け、関東全域に「面」としてひろげていくことを目指しています。

コウノトリもすすめるような「人にも生きものにもやさしいコウノトリの里 こうのす」を創造し、未来へと継承していくため、市民の皆さんをはじめ、関係機関・団体と連携・協力してまいります。

まなび、つたえる

笑顔が輝く担い手づくり

コウノトリの里づくりは、市民みんなが主役！
みんなで創る「環境にやさしいふるさと 鴻巣」を、未来に残していきます。

「共に生きる」をかながえる

学校の授業や田んぼでの生きものさかしを通して、たくさんの生きものがすむことのできる自然環境の大切さを学んでいます。わたしたち人間も、自然で暮らす生きものの一員です。「食べる-食べられる」のいのちのつながりや、たくさんの生きものとの共生を、いっしょに考えています。



水路や江には、
たくさんの生きものがあるんだね。



動物園の出張授業！
生きものどうしのつながりを学んだよ。